

# 第1学年2組 算数科 学習指導案

## 1 単元名 「10より おおきい かず」(8時間完了)

### 2 単元の目標

- (1) 2位数の表し方について理解し、数の大小や順序を考えることで、数の系列を作ったり、数直線の上に表示したりすることができる。数構成にもとづく加減計算ができる。(知識及び技能)
- (2) 数のまとまりに着目し、数の大きさの比べ方や数え方や、数構成にもとづく加減計算の仕方を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)

### 3 本単元の学習について

本学級の児童は、既習単元である「いくつと いくつ」において、10までの数の概念や構成について学び、数の読み方や書き方、大小関係について理解することができた。しかし、数のまとまりや系列についての意識が低いことが課題である。このままだと、計算の仕方を考えたり、より大きい数を学習したりするときに、困難に感じてしまう。そのため、数図ブロックを使って10のまとまりを考えたり、数直線を示したりして、視覚的な補助が必要であると考え。そうすることで、大きい数の計算の仕方を理解することができたり、数の順序や系列をイメージしやすくなったりすると考える。

本単元の学習の流れは、次のようになる。

【第1時】20までの数の数え方や読み方、表し方を理解する。

【第2時】20までの数の書き方を知る。数字と数図ブロックを対応させ、大小比較をする。

【第3時】「2ずつ」「5ずつ」の数え方を工夫し、それを用いて数える。

【第4時】「10といくつ」という見方を知り、20までの数について理解を深める。身の回りから、20までの数のものを見つける。

【第5時(本時)】数字カードを並べ、20までの数の系列について理解する。数直線上の数を讀んだり表示したりする。

【第6時】 $10 + (1 \text{ 位数}) = (十何)$ 、 $10 - (1 \text{ 位数}) = (十何)$  の計算の練習をする。

【第7時】 $(十何) + (1 \text{ 位数}) = (十何)$ 、 $(十何) - (1 \text{ 位数}) = (十何)$  の計算の練習をする。

【第8時】練習問題を解き、学習内容の理解を確認する。

### 4 本時の指導(5/8時)

#### (1) 本時の目標

数直線を使って数の大小と系列について考え、数の表し方を友達に伝えることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

#### (2) 本時の展開

(学習課題) どうしたら□のかずがわかるかな

0(分)	10	20	27	40	45
導入・見通し	チーム学習①(10分)	全体学習	チーム学習②(13分)	振り返り	

数カードを使って、ペアで1～10の数ならべをし、その後、全体で確認する。数カードの下に示される数直線(かずのせん)の特徴(0から始まること、10より先も続くこと)をつかむ。10までの並べ方を思い出し、それ以上の数も同様に並べられれば良いことを確認し、□の数(14)を考える見通しをもつ。本時の学習の方針を確認する。

□に入る数はいくつ、また、その考え方を各自で考え、話し合う。数直線が貼られたホワイトボードを活用しながら話し合う。0から数える、10より4大きい、15より1小さいなど、色々な考え方を考える。

□の数の考え方を確認する色々な考え方があることを知る。右に行くほど数が大きくなること、左に行くほど小さくなることなど、数直線の特徴を確認する。「●よりいくつ大きい」「●よりいくつ小さい」という言い方を確認する。

チーム学習①と同様に、△(19)に入る数について考え、考え方を確認し合う。早めに終えたら、ミニ先生となり、グループの友達の丸付けをし、困っている子を助ける。適用問題を解く。

学習課題が達成できたか自分の姿を学びの天気で判断する。思いを文章で表現する。

### (3) チーム学習の展開

#### 【チーム学習①】

(発問)「□に入る数は、何かな。どうしてそう考えたのかな。」

チーム学習の状況を把握するために

- ・数直線を印刷した大きめの紙をホワイトボードに人数分貼り、発表、話し合いができるようにする。

想定されるチームの様子と教師の出

どんな方法で□に入る数を考えるのか、見通しがもてない子がいる。

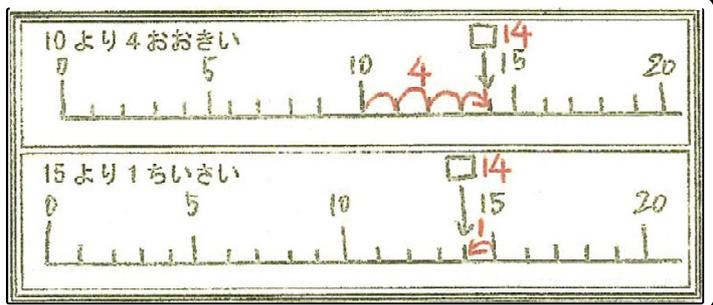
- ・数直線に注目して考えるように言う。
- ・「●よりいくつ大きい」「●よりいくつ小さい」の●に入る数から考えるよう伝える。
- ・同じチームや他のチームの子に、分からない子を助けるように言う。

□に入る数を答えることができるが、数のまとまりをイメージすることができない。

- ・「前の時間に学習したことを使ってできないかな」と問い、「10といくつ」の言い方を想起させる。
- ・「数直線を使って、考え方を説明することはできないかな」と問う。

数のまとまりをイメージしながら、□に入る数を考えることができる。

- ・10や5など、数のまとまりに注目し、□の数を導き出すことができていることを称賛する。
- ・1つの考え方だけについて話し合っているチームに個を派遣し、他の考え方を知らせてくるように伝える。



#### 【チーム学習②】

(発問)「△に入る数は、何かな。どうしてそう考えたのかな。」

チーム学習の状況を把握するために

- ・数直線を印刷した紙を一人一枚配付し、自分が使った考え方を書き込むことができるようにする。

どんな方法で△に入る数を考えるのか、見通しがもてない子がいる。

- ・チーム学習①で知った考え方をを使うように言う。
- ・同じチームや他のチームの子に、分からない子を助けるように言う。

△に入る数を答えることができるが、0から数えるなど、それを求めるのに適していない考え方に固執している子がいる。

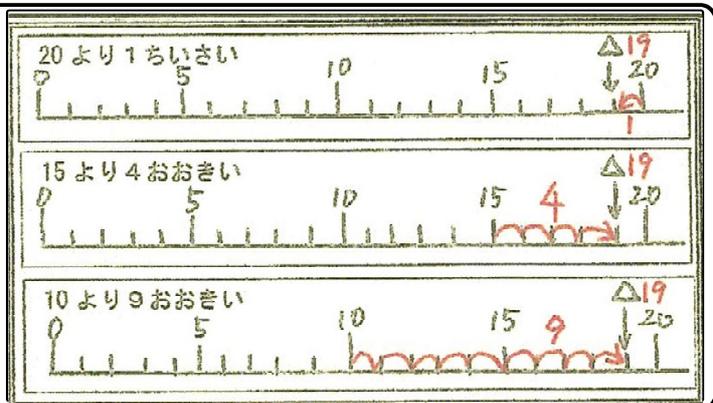
- ・チームで、一番適した考え方はどれか考えるよう伝える。

問題を解き終えて、時間を持て余している子がいる。

- ・ミニ先生になって、自分のグループや他のグループの困っている子を助けるように伝える。

チーム学習①で知った考え方をを使って、△に入る数と、それを求めるのに適した考え方を各自で考え、グループで確認し合う。互いに協力しながら適用問題を解く。

- ・チーム学習①で知った考え方の中から△に入る数を考えるのに適した考え方を話し合っていることを称賛する。
- ・メンバーが全員ミニ先生になったグループに、他のグループに協力するように伝える。



### (4) 評価

数直線に注目しながら、数のまとまりをイメージして求める数を表し、その求め方を友達に伝えることができる。(チーム学習①②の児童の発言やホワイトボードの記述、振り返りの記述から)